

第19話 他大学受験

中学受験、高校受験の後には、大学受験が待ち構えています。大学付属校へ入学した場合、附属の大学へは無条件で上がれるのでしょうか。また逆に、例えば中学から附属に入学したら、10年間同じ学校から動くことはできないのでしょうか。今回は、内部進学と、他大学受験についてまとめてみます。

まず大学への内部推薦には、「希望者全員が推薦を得られる学校」と、「一定の基準を満たせば推薦を得られる学校」とがあります。一定の条件とは学校によりまちまちで、内申点が基準となることもありますが、一斉テストを受ける必要がある学校、大学の推薦枠に応じて成績上位者から推薦、という措置もあります。

いくつか学校例を見てみましょう。

青山学院

基準を満たした生徒は、希望者全員が推薦を得られる。他大学を受験する場合は、青山学院への推薦を受けられない。

中央大学付属杉並高

中央大学の推薦枠に応じて、成績上位者から順に推薦を得る。国公立か、中央大学にない学部の私大を受ける場合のみ、推薦を保持できる。

立教池袋

卒業単位を満たしていれば、推薦を受けられる。ただし、英検2級程度の英語力が条件。

法政大学女子

卒業生は法政大学への推薦を受けられる。推薦資格を持ちながら、他大学を受験することが可能。

慶應義塾女子

卒業生は全員推薦を受けられる。

慶應義塾志木

3年間の成績によって判定。他大学を受験する場合は慶應大学への推薦を受けられない。

早稲田実業

定期試験や内申を総合的に評価。他大学受験をする場合は早大への推薦は受けられない。

早稲田本庄

3年間の成績や卒論を総合的に評価。他大学を受験する場合は早大への推薦は受けられない。

「一定の基準」や「総合的に判断」と謳っている学校でも、基本的には赤点を取ったり、学校をサポートしていない限り、推薦の資格を得ることができます。ただし、希望の学部に入れるかどうかは、成績次第となります。また、付属校が複数ある場合など、校舎によって定員枠が変わってきます。

もう一つ気になるのは、内部推薦をキープしたまま他大学を受験できるか、ということでしょう。多くの学校では、他大学を受験する場合、内部推薦を辞退しなければなりません。学校によっては、国公立か自大学にない学部を受験する場合は、推薦を保持できるところもあります。

途中で目指す進路が変わってくる場合もあるでしょう。もしくは、大学受験を前提に付属校を目指す場合、このあたりの情報も集めておきましょう。